

令和 3 年度  
東川町教育行政執行方針 (ダイジェスト版)

# 生きる力

— こども一人ひとりを理解し 自立を助け 生きる力を育む —



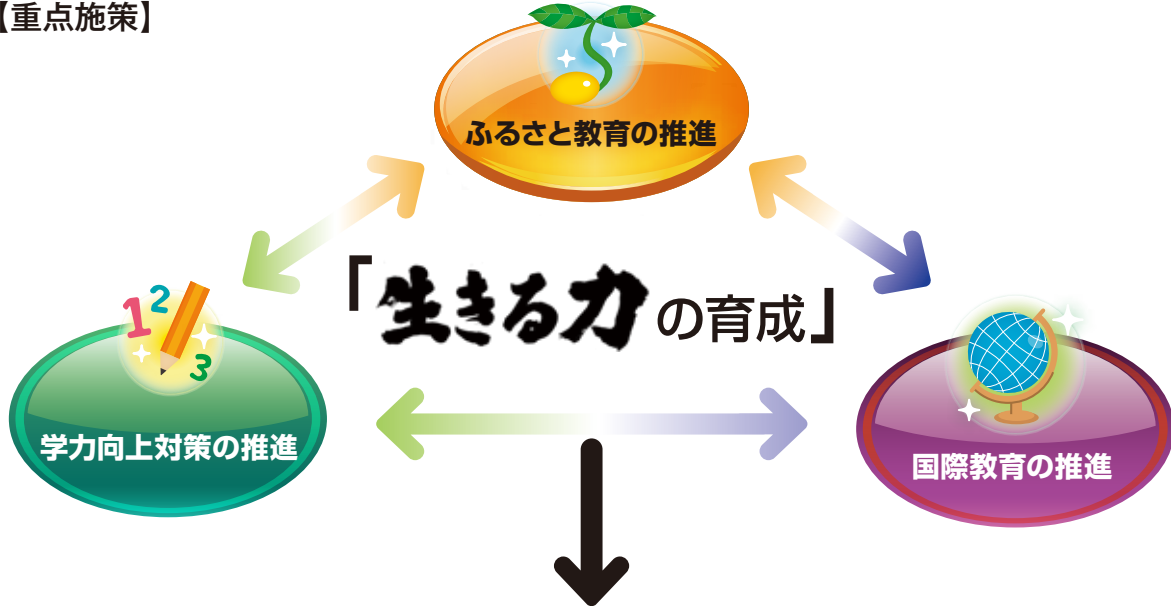
題字：鈴木幸恵教諭（東川第一小学校）

# 東川町教育行政執行方針

## 教育行政の体系

【基本方針】「こども一人ひとりを理解し 自立を助け 生きる力を育む」

【重点施策】



令和4年度  
目標

ふるさとを愛し共生・共和・共栄の観点に立ち  
国際社会に貢献できる人材の育成

## はじめに

情報技術の高度化などに加え、新型コロナウイルスの感染拡大が大きな影響を与える混迷の時代を迎え、今後、デジタル・トランスフォーメーション（注1）が急速に進むと考えられ、これを好機として学びの改善を着実に進めていく必要があります。

このような中であって、情意面や全人格教育などこれまで作り上げてきた教育の良さを生かしながら目的意識を持ち、高い自己調整力を持って主体的に学ぶ子どもを育て、ひとり一人が自分を知り、多様な他者を尊重し共感する力を身に付け、社会の変化に柔軟に対応し、自分なりの方法で社会に貢献することができる子どもを育てていく必要があります。

本年は、「共生・共和・共栄」の視点に立ち、諸課題に対応すると共に東川町固有の文化を活かし、地域・保護者・学校との連携を強め、世界に開かれた子育て・教育の町づくりを進めていきます。また、新型コロナウイルスの感染防止に配慮し、子どもたちや町民の安心安全に配慮した取り組みを継続して行っていきます。

## 基本方針

こども一人ひとりへの理解を深め、地域の豊富な人材や教育資源を活用して、「ふるさとに誇りを持ち、多様な価値観を受容でき、人間愛あふれ、主体的に学び続けることができ、予測不可能な未来を生き抜くことができる子ども」の育成を目指し、基本方針を「こども一人ひとりを理解し 自立を助け 生きる力を育む」とし、次の3つの重点施策について取り組みます。

【デジタル・トランスフォーメーション】（注1）

ITの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的イノベーションをもたらすもの

## 重点施策

### ① ふるさと教育の推進

本町には、美しく豊かな自然、昔から受け継がれてきた固有の歴史や文化、これらを受け継ぐ人材が豊富です。これらの地域資源を有効に活用し、自然・地理・歴史・文化・芸術・産業・先賢や暮らしに関する事などについて学習を深めることにより、ふるさとへの理解を深め、地域を支える次世代の人材育成に努めます。

### ② 学力向上対策の推進

本町で生まれ育った全ての子どもたちが、健やかに夢を育むことができるよう、小学校低学年からの学習のつまずきを把握し、「学ぶことが楽しい」と感じることができる指導を行い、主体的に学習する子どもを育成します。また、ICTを利活用し、個別最適化された学びと協働的な学びにより、子どもたち全員の基礎学力を保障し、将来の選択肢を広げることができるよう、学校、家庭、地域、行政が一体となった学力向上の取組みを進めます。

### ③ 国際教育の推進

平成29年度に文科省の指定（当初4年間・継続1年）を受けた「国際教育に係る研究開発学校」の取組みは、文化や価値観などの異なる人々とよりよい人間関係を構築できる資質・能力の育成に重点をおき、幼・小・中・高を通して、東川町の地域資源を最大限に活用した国際教育を推進しています。この取組は、幼小中高に亘り4歳から18歳までの長期に亘る学びの積み重ねと各校種間の接続の系統性を確保することが必要です。

このため、研究延長の取組みを進め、子どもたちが**新教科「グローブ（Globe）」**で学んだ能力を普段の生活の中でも活用できるように在住外国人や留学生など海外から訪れる方々と交流するなど体験を充実させます。また、本年は研究の最終年であることから、全国の教員や教育関係者等を対象に「研究開発学校研究発表会（研究協議会）」を開催します。



## 《令和3年度主要（新規・重点事業）施策》

### ① 就学前教育（幼児教育・乳幼児保育）の推進

[担当:子ども未来課]

事業名等	内容等
幼児期に育みたい資質・能力の育成	「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」等が要請する資質・能力の育成のため、遊びを通じた総合的な指導により、小学校への円滑な接続に努める。
異文化交流や英語活動など国際教育の推進	ALT、CIR、SEAなど町内在住外国人の協力を得ながら、就学前の児童を対象に楽しく外国文化や英語でのコミュニケーションを学ぶ「新教科グローブ」を実施。
絵本の読み聞かせの充実	学生・地域ボランティアなどによる絵本の読み聞かせや、園内で子どもが絵本を手に取りやすい環境整備を行い、家庭での読み聞かせの推進を図る。
教育・保育環境の充実	短時間型預かり保育事業の一部無償化、園内組織体制の充実、保育士確保のため職員待遇の改善、地域おこし協力隊・子育て支援員の活用などにより教育・保育環境の充実を図る。
小規模保育事業所、他市町村との保育サービスの連携	保育サービス充実のため、町内小規模保育所や町内外の保育サービスを実施する事業所との連携を図る。
地域子育て環境の充実	子育て支援センターの開設時間延長、一時預かり事業の体制強化、子どもの遊び場整備などにより地域の子育て環境の充実を図る。

## ② 学校教育の推進

[担当: 学校教育課]

事業名等	内容等
日常的な読書活動の推進と学校図書館司書の配置	読書活動推進協議会と連携した朝読書や読み聞かせなど読書活動の充実、教科学習での学校図書館の活用と各校図書館司書の配置。
学習支援員、教育補助員、特別支援教育支援員等の配置	学習支援員: 東小~6名、第二~1名、東中~2名、外国人子弟支援員(東小・東中) 教育補助員: 東小~2名、特別支援教育支援員: 全小中学校~各1名 理科観察実験アシスタント: 第一・二・三小~各1名
学びの個別最適化と指導体制の充実	習熟度別指導・少人数指導など、「個別最適化」を進め、自ら学び考える力を育成し、特異な才能のある児童生徒の能力を伸ばす。 *小学校「ゆめスクール」・中学校「地域未来塾」の充実
スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置	各校巡回スクールソーシャルワーカー1名・スクールカウンセラー1名(週2日)を配置。 拠点校: 中学校(小学校巡回指導)
国際教育交流事業の実施	*フィンランドピッコラ中学校一生徒受入: 計8名程度(約1週間程度) *USA-JMU大学教育学部生の受入: 5名程度(6月中旬2週間程度) 教職員の派遣: 幼・小・中 各1名(11月中旬に10日間程度)
文科省「研究開発学校」による国際教育の推進 (研究発表全国大会10月22日開催)	幼・小・中・高の連携のもと国際教育に係る「研究開発学校」事業を実施し、地球的視野に立って主体的に行動できる人材を育成。 *英語教育推進員の配置: 東中~1名 *英語専科教員の配置: 各小中高~1名 *ALT~6名、CIR~12名、SEA~4名、JETプログラムコーディネーター~1名
奨学金助成事業の推進 (要件を満たす大学等進学者への助成)	*東川町大学進学奨学助成金(＋コロナ対策~12万円/人) 1年次~海外大学70万円、国内大学・短大・専門学校等50万円) 2年次以降~自宅外通学4万円/月、自宅通学1万円/月 *小西健二奨学金(国公立大学等に限定) 大学~20万円、短大等~10万円/人 *ものづくり技術者育成奨学金-建築・土木・木工芸等技术者養成~10万円/人
ICT教育とGIGAスクール構想の推進	一人一端末やICT機器を活用し、情報活用能力の育成や個別最適化された学び、協働的な学び、探求型の学びを実践する。デジタル教科書や教育ソフトを有効活用し、子どもたちが自ら学び取る授業への質的な転換を進める。
学校長寿命化計画の推進	学校の長寿命化個別施設計画に基づき、その計画に沿った改良工事を実施。 *R3 第三小工事、第二小設計

## ③ 社会教育の推進

[担当: 生涯学習推進課]

事業名等	内容等
学社連携事業の推進	学社連携推進協議会を推進母体とし、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働本部」が車の両輪となって、地域全体で未来を担う子どもたちを育む。
家庭教育支援(学童保育)事業の拡充	学童保育内に家庭教育支援員を配置し、宿題や予習・復習等の支援を行い、望ましい生活習慣や家庭学習の定着を図る。
地域おこし協力隊事業の活用	「コンサドーレU12東川」活動支援、わくわくプレイス、クロスカントリースキーの普及・振興のため、地域おこし協力隊を活用。
わくわくプレイス事業の本格スタート ※開始時期-5月	遊びの専門的知識をもったプレイワーカーを配置し、東川の豊かな資源を活用して、子どもの自主性・創造性を伸ばし東川らしい子どもを育成。
魚津市との越中踊り交流事業支援	富山県魚津市から越中踊りの指導者を招聘し、指導を受け交流を深める事業支援。
アイルランド・ゴールウェイ市への中学生・高校生吹奏楽団の派遣	EU・ジャパンフェスト日本委員会の推薦を受け、欧州文化首都青少年文化交流事業(「シンフォニック・ウェーブスin欧州文化首都ゴールウェイ2021」)に中高の吹奏楽部生徒を派遣。
スポーツ国際交流員の活用	JETプログラムによるスポーツ国際交流員(SEA)1名を追加配置して4名体制とし、スポーツの振興と国際交流など地域の活性化に繋げる。
「ちびっこスポーツクラブ」・「ふあんすぽ」の実施	小学1~2年生を対象に「ちびっこスポーツクラブ」、小学3~6年生を対象に「ふあんすぽ」を実施し体力づくりやスポーツ好きの子どもたちを育成。
中学校への部活動指導員の配置	野球、サッカー、インターナショナルクラブ、バドミントンの部活動の技術指導や大会への引率等を行う「部活動指導員」を配置。
民間企業と連携した健康づくりの実施	「地域おこし企業人制度」を活用し、民間企業からの派遣社員2名を、B&Gトレーニングルームの常駐指導、人材育成のほか健康づくり講座などを開催。